

みんなのけんこうガイド



おとな

(おおむね
30歳～64歳)

こども

(乳幼児)

駐車場は、児玉総合支所または第二庁舎をご利用ください。

児玉保健センター ☎ 5540

本庄市保健センター ☎ 2003

乳幼児健康診査・健康相談 【受付時間】 印・・・午後1時～1時30分、 印・・・午前9時30分～10時
*対象者には通知します。

内容	対象となる人(お住まいの地域)	日程	会場
3～4か月児健康診査	平成19年4月生まれ(本庄地域)	8月23日	本庄市保健センター
	*児玉地域にお住まいのお子さんについては9月下旬に実施。(詳しくは次号で)		児玉保健センター
9～10か月児健康相談	平成18年10月生まれ(市内全域)	8月23日	本庄市保健センター
1歳6か月児健康診査	平成18年1月生まれ(本庄地域)	8月22日	本庄市保健センター
	*児玉地域にお住まいのお子さんについては9月下旬に実施。(詳しくは次号で)		児玉保健センター
2歳児健康相談	平成17年7月生まれ(市内全域)	8月21日	本庄市保健センター
3歳児健康診査	平成16年7月生まれ(本庄地域)	8月21日	本庄市保健センター
	*児玉地域にお住まいのお子さんについては9月下旬に実施。(詳しくは次号で)		児玉保健センター

予防接種 【受付時間】午後1時～1時30分
*対象者には通知します。対象月齢を過ぎても接種していない場合はお問い合わせください。

内容	対象となる人(お住まいの地域)	日程	会場
BCG予防接種 (接種可能な月齢: 6か月未満)	平成19年5月生まれ(本庄地域)	8月2日	本庄市保健センター
	平成19年6月生まれ(本庄地域)	9月4日	
	平成19年5月生まれ(児玉地域)	8月9日	児玉保健センター

相談・学級 【会場】児玉保健センター
*電話による育児相談は、各保健センターで随時受け付けています。お気軽にご相談ください。

内容	対象となる人	日時	その他
すくすく相談 (育児・栄養相談、計測)	相談・計測希望の人	8月9日 午前9時30分～11時	前日までに電話予約してください。
コアラクラス (育児学級)	2～3か月児とその保護者	8月2日・9月6日 午前10時～11時30分	対象者に通知します。
カンガルー広場 (情報交換・友達づくりの場)	0～2歳児とその保護者	8月6日・9月3日 午前9時30分～正午	おやつを持ち込みはできません。
おや親タマゴ(全4回)	これからママ・パパになる人	8月10日・17日・22日・25日 午前9時30分～正午	先着20組。事前に電話予約してください。25日はできるだけご夫婦で参加してください。
わんぱくツインズくらぶ (情報交換・友達づくりの場)	9月下旬に実施。(詳しくは次号で)		



～今年度中に40歳・50歳・60歳・70歳を迎える人へ～

「歯周疾患検診」のお知らせ

歯を失う原因の約9割を占める虫歯と歯周病。たとえ今症状が出ていなくても、早期に発見し治療や予防をするため、歯周疾患検診を受けましょう。

あなたは受診していますか？

昨年度まで保健センターで基本健康診査と同時に実施していた歯周疾患検診が、今年度から節目年齢の人を対象に、個人で歯科医院に予約をして受診する個別実施に変わりました。

実施期間 12月28日(金)まで

対象者 40歳(昭和42年4月2日～昭和43年4月1日生まれ)・50歳(昭和32年4月2日～昭和33年4月1日生まれ)・60歳(昭和22年4月2日～昭和23年4月1日生まれ)・70歳(昭和12年4月2日～昭和13年4月1日生まれ)の人

費用 無料

用意 保険証

検診場所 歯周疾患検診実施歯科医院(実施可能な歯科医院にはポスターが掲示してあります。)

受診希望の人は、実施歯科医院に予約をして受診してください。

*お問い合わせは本庄市保健センターへ



医療メモ

本庄市児玉郡医師会広報部

血小板ってなに？

血小板減少症と出血傾向の話

血小板とは？

血液の量は体重の約13分の1で、この血液が体内の隅々まで循環し、物質の運搬(酸素や二酸化炭素、栄養物質、ホルモン、老廃物など)や生体の防御(細菌などの病原体や異物の除去、出血を止める機能など)、様々な働きをしています。血液は液体成分(血漿)と細胞成分(血球)からなり、細胞成分は赤血球・白血球・血小板からなり、骨髄(骨の中の赤いところ)で造られます。赤血球は酸素を運搬し、血液が赤いのは赤血球中の色素(ヘモグロビン)のためです。白血球は、感染などから身体を守る働き(免疫)をしています。

血小板は、出血した時損傷した血管壁に「べたべた」と付き(粘着)、傷ついた部位を塞ぎ出血を止める働きをしています。血液1マイクログリットル(1リットルの100万分の1)の中に15万～35万個あり、古くなると脾臓(胃の左にある臓器)で壊されます。血小板数が5万～6万以下に減少するとあざがでやすくなり、2万～3万以下になると比較的小さな傷からも出血を起こしやすくなります。さらに1万以下になると非常に危険な状態になり、傷がなくても出血するようになります。このような出血しやすい状態を出血傾向と言います。

血小板減少症の症状は？

最初の兆候は皮膚の内出血です。赤く小さな点が膝から下に多数現れ、軽くぶつけた程度のけがでも小さな青あざが一面にできます。また歯肉からの出血や、便や尿に血液が混じることや生理の出血が多くなり、止まりにくいこともあります。血小板数が非常に少なくなると、消化管から出血し多量の血液が失われ貧血になったり、外傷がなくても脳内出血を起こしたりします。

血小板減少症の原因は？

骨髄が血小板を十分に造らなくなる白血病や再生不良性貧血などがあります。また、肝硬変や骨髄線維症などで脾臓が腫大すると、血小板が脾臓に閉じこめられ、そこで壊されて減少します。血小板が過剰に使われたり破壊されたりして減少する病気が、特発性血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病、溶血性尿毒症候群(病原性大腸菌O157感染症などで発症)などで、血小板減少症とは症状名であり、原因疾患ではありません。血小板減少症の対策は？

異常な青あざや点状出血があると、血小板減少症が疑われますので医療機関を受診しましょう。採血のみで簡単に血小板数は分かりません。ときには出血傾向がない場合でも、血液検査で血小板減少症が見つかることもあります。血小板減少症が確認された場合、感染の有無、経過(長いか短いか)、肝障害の有無や貧血の有無などが、原因疾患を突き止めるのに重要です。

みなさん、ときにはあざや点状出血の有無を確認してはいかがでしょうか。重篤な病気が隠れていることもあります。